

私共の見る主、聞く主としての眞実の自己、統一的主体は如来様の絶対無差別平等、常住不変で、分かつべからざる大宇宙全一の大我であります。だから私がこの手を抓れば、如来様の絶対唯一の大我を共通の見る主、聞く主、統一的主体としておる皆さんも同時に抓られた痛みを感じてもよさそうなものでありますが、事實は抓られた私だけが痛みを感じて、他の人々はその痛みを感じない。すなわち痛みを感じる者と感じない者との自他の区別があります。

この自他の区別を生ずる根本は何か。私の統一的主体のお話は、私共の見る主、聞く主としての統一的主体は、如来様の常住不変無差別平等の大宇宙全一の大我であることだけを申し上げて、自他の区別を生ずる根本には少しも触れておりません。自他の区別を生ずる根本の面と併せてお話し申しませんと統一的主体、眞実の自己の御説法を詳しくしたことになります。だからあの統一的主体のお話は詳しくない、低く浅いもの、方便対機の説法であります。

私があゝの眞実の自己、統一的主体のお話をする目的は、光明主義の念仏の入門のところ、五根五力の修行から択法覚支に移る時の念仏が正しく容易にできるようにするためであります。統一的主体のお話を詳しく厳密に申し上げるのが目的ではありません。

心とは、いつ起きるどんな心も、象であると同時に覚りであるもの。

覚りが見る主、聞く主としての統一的主体で、実に如来様の大宇宙全一の大我である。

この二つの事実を深く心にとどめておくことが、光明主義の念仏の入門のところである。大切であります。自分の真正面に絶対円満なミオヤの妙色相好身在ますことをいつもお忘れ申さないように努め、ミオヤをお慕い申しております。そして五根五力の念仏が成就いたしますと、見える限り、聞こえる限りのものが象であると同時に覚りであつて、如来様の真実の御心、すなわち自分の真実の心の中に色形を見る、音を聞くというようになります。本より絶対真実の生きた如来様が三昧仏様の御相好と一つになつていて下さると感ずる時、三昧仏様と一つになつた生きた真実の如来様を感ずる、その覚りのところに見る主、聞く主としての真実の自分を感じます。

このように、五根五力から摂法覚支に正しく、しかも容易に移るためには、あの真実の自己のお話は実に大切でありますから、あのお話の最も大切なところを心にしかとどめて念仏して頂きたいと存じます。あの統一的主体のお話は低く浅いものであります。法身の中心である絶対の報身を根本仏と仰ぐ立場から、深く心をこめて絶対理性と絶対感性が円満に融合統一した統一的主体を説いております。

(三)

「如来様の大我を統一的主体とする」というところは一往同じようであります。が、

『臨濟録』は慧眼で体大法身と合一した時の如来の大我。

『瑜伽論』は仏眼で体大法身と合一した時の如来の大我。

光明主義は三身四智の仏眼で法身の中心である絶対の報身と合一して、その体大法身の最も深い部分、法身の最も重要な面と合一した時の如来の大我。

の差別があります。『臨濟録』『瑜伽論』を引用しておりますが、しかと心して私の説法をお聴き下さいましたら、三身四智の仏眼で法身の中心、法身の粹すいとしかと合一した時の如来の大我が私共の見る主、聞く主、としての統一的主体であることを説いておる事実に気付いて下さるものと信じております。弁栄上人はしかと三身四智の仏眼を実現して、

我といふは絶対無限の大我なる無量光寿の如来なりけり

と御教示下さいました。三身四智の仏眼で合一した時の如来様の大我が、私共の統一的主体であるという弁栄上人の御教えに基づいてお話し申し上げます。

(三)

ミオヤの純粹清浄円満な体・相・用から無明が発現する様相を弁栄上人が三身四智の

仏眼によって明了に三昧直観して御教示下さいました。あのような明了な教えは従来の仏教体系にはありません。「ともかく無明の心が存在する。ミオヤの光明に照らされると、私共の無明の心が浄化されて如来心となる」というのであります。それと同じように『瑜伽論』をみましても「各人各別の阿頼耶識がある。各人各別の阿頼耶識より自他の区別をする自我観念である末那識が出現する」というのであります。私共の見る主、聞く主としての真実の自己、統一的主体は、等しく如来様の絶対無差別平等で、分かつべからざる唯一の大我でありながら阿頼耶識の各人各別の区別を生じ、末那識に自他を区別する自我観念が発現する、各人各別の区別、自他の区別を生ずる絶対的根源もまた不明のままであります。

法身の中心である絶対の報身もとの本より絶対円満な絶対理性と融合統一調和しておる円成じょうじつ実性の真実在である絶対感性の能動的発現である「衆生心に相應した因縁因果の相対的感性」により、阿頼耶識に各人各別の区別を生じ、末那識に自他を区別する自我観念が発現する。弁栄上人の三身四智の仏眼によるこのような御教示は従来の教えにはありません。

従来の聖道しょうどう、浄土の体系では、如来の真実円満な体・相・用より無明が発現する仕方が不明のまま、如来様の絶対無差別平等で分かつべからざる唯一の大我を一切の衆生

は等しく見る主、聞く主としての真実の自己、統一的主体としながら自他の区別がある。この自他の区別を生ずる絶対的根本もまた不明のままであります。私が引用いたしました『瑜伽論』『解深密經』『臨濟録』等は、皆只今申しました重要なところが不明のままの経論でありました。

「法身の中心である絶対の報身が最尊唯一の根本仏で、無量光より超日月光に至る十二の光明、絶対理性と絶対感性、大宇宙全一の妙色相好身が本より絶対円満な真実在である」という光明主義の立場から、自他の区別を生ずる絶対的根源、見分・相分・自証分・証自証分の四分を明了に説いた、笹本の言わんとする厳密な統一的主体のお話を、後日纏めて頂きたいものであります。このことをお願い申しておきます。